TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

王が来られた 真の礼拝者

マタイの福音書 21:14-17

2022年6月4日&5日
余沢 武牧師

I. 初めに

ご挨拶

投票に参加された皆様に感謝いたします。予算も含めて、すべての事項が可決されました。神をほめたたえます。

7 月から礼拝中のグループ間の座席を「一席」にし、予約制をなくすことができるよう、引き続き祈りましょう。

今回のシリーズ「王が来られた」では、イエスがメシアの王としてロバに乗ってエルサレムに入ってきた場面を見てきました。そして、イエスは両替商や商人を追い出した神殿を「強盗の巣」と呼び「祈りの家」であるべきだと話しました。

今日は「ユダヤの権威者たち」はどのようにしてイエスの怒りを買い、イエスが神殿で「真の礼拝者」と見なすのは、どのような人たちのことなのかを見ていきましょう。

II. 真の礼拝者

(1) 目の見えない人、足の不自由な人

マタイによる福音書 21:14-17 を読みましょう：

14 境内では、目の見えない人や足の不自由な人たちが御もとに来たので、イエスは彼らを癒やされた。15 しかし、祭司長たちや律法学者たちは、イエスがなさった不思議な業を見、また、境内で子どもたちが叫んで、「ダビデの子にホサナ」と言うのを聞いて腹を立て、16 イエスに言った。「子どもたちが何と言っているか、聞こえるか。」イエスは言われた。「聞こえる。『幼子や乳飲み子の口に、あなたは賛美の歌を整えられた』とあるのを、あなたがたはまだ読んだことがないのか。」17 それから、イエスは彼らと別れ、都を出てベタニアに行き、そこでお泊まりになった。

ここでは、目の見えない人、足の不自由な人、子供たち、祭司長、律法学者が、イエスにどう反応したかがわかります。しかし、他の人たちがいかに静かであったかに注目してください。もし私たちがその場にいて、イエスがご自身を権威者たちの一番の敵とされたのを見たら、私たちはどのように反応しますか？

もし私たちがイエスをメシアと信じるなら、私たちはイエスのところに行きますか？それとも、イエスと離れたところに行く、特に権力者が見ているときに彼らを怒らせないように？

その一方で、もし私たちがイエスをメシアだと信じなければ、どのように反応するでしょうか？恐らく、とにかく近づかないでしょう。

どちらにしても、私がイエスから安全な距離を保つかもしれない、可能性があるのです。それが、今ここで見ていることです、いくつかの例外と共に。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、私たち家族はコンドミニアムのような、日本のマンションに住んでいます。そのため、特に早朝や夜間には、近隣住民の迷惑にならないよう、音を立てないように気をつけなければなりません。

5 年ほど前の冬の朝、4 時半ごろ、誰かが玄関のベルを鳴らす音がしました。私たちは皆まだ寝ていました。最初は、誰かが酔っ払って間違ってドアベルを押したのだろうと思い、無視しました。しかし、その人はずっと押し続けたのです。

それで起きてみると、それは下の階の住人でした。彼は、うちから水が漏れていて、彼の部屋の天井から水が垂れていると言うのです。

私たちは確認しました。私たちの家の床もすっかり濡れていて、ただそれは我が家からではなく、うちの天井からも水が垂れているのに気が付きました。そこで、私たちは彼にうちのせいではないですよ、と告げその後、また眠りについた、いや、そうはしませんでした。

私はすぐに上の階の隣人のところへ行き、ドアベルを鳴らしました。誰も出てきませんでした。それで私は何度も鳴らし続けました。朝の 4 時半

です。隣人を怒らせてしまうでしょうか？ そうかもしれません。でも、そんなことは気にしませんでした。なぜなら、単純にそのまま放っておくわけにはいかなかったからです。

水は私たちの部屋、うちの階下のお宅、そしておそらく階上の住民の部屋にもきていました。私たち皆の生活が台無しになってしまうのです。

それは目の見えない人や足の不自由な人の場合も同じでした。彼らはイエスのもとに行くことで権力者を怒らせてしまうでしょうか？ 恐らくそうでしょう。しかし、彼らは気にしませんでした。なぜなら、彼らはただこの機会を逃して、問題を抱えたままにしておくわけにはいかなかったのです。その問題は彼らの人生を台無しにしていたからです。

そして、何があっても、イエスに助けを求めて叫ぶことを決意していたのです。これこそが「真の礼拝者」の態度なのです。そしてイエスは彼らを歓迎し、癒したのです。

(2)子供たち
また、イエスに歓迎された二つめのグループがありました--子供たちです。彼らは、「ダビデの子にホサナ!」と叫んでいます。その意味は、「私たちをお救いください、ダビデの子、メシア」です。

ユダヤの権力者たちは動揺しました。しかし、イエスは、これもメシアについて預言されていることだと、彼らに言いました。詩篇 8:2a**「幼子と乳飲み子の口によって砦を築かれた。」**

なぜ、この子どもたちは、イエスが「メシア」であることを知ることができたのでしょうか。おそらく彼らは、イエスがエルサレムに入る時、大人たちや彼らの親たちがイエスを賛美するのを聞き、そして、イエスは「メシア」であり「神の民」を彼らの敵である「ローマ人」から救うためにやって来た、と言われたのでしょう。

しかし今、大人たちはユダヤの指導者たちを恐れて、沈黙しているのです。
では考えてみましょう、どちらがより理にかなった行動をとっているのでしょう「大人たち」でしょうか、「子供たち」でしょうか？

もし「ローマ人」が「ユダヤの権力者たち」よりも強力だとしたら。そして、もし「メシア」が「ローマ人」を倒すために来たとしたら、それは「メシア」が「ローマ人」よりも偉大であるということになるわけです。

だから、「メシア」と一緒にいるときは、「ユダヤの権力者たち」を恐れる必要はまったくないわけです。そのことを「子供たち」は理解していたのですが、「大人たち」は理解していなかったのです。

ここで思い出すのが、サムエル記上 17 章にあるダビデとゴリアトの話です。イスラエル軍がペリシテ軍と戦っていた時、身長 3 メートルのペリシテの大兵士ゴリアトが、イスラエル軍に戦いを挑みました。 しかし、皆は彼に恐れをなしたのです。

自分たちがこの大きさ[小さい]なら、ゴリアテはこれだけ大きさ[大きい]だから彼に勝てるわけがないと考えました。

しかし、ダビデはそれを聞いて、こう言いました。**「生ける神の戦列を嘲笑うあの無割礼のペリシテ人は、一体何者ですか。」(サムエル記上 17:26b)。**

彼は、「ゴリアト」が私たちに勝てるわけがない、と言っていました。なぜなら、私たちは「生ける神」と共にいるからです。彼らがこれだけの大きさ[小さい]なら、ゴリアトはこれだけ大きかった[大きい]。しかし、「生ける神」はこの大きさ [巨大]だったのです。

ダビデはゴリアトに**「主の名によって、お前に立ち向かう。」(サムエル記上 17:45b)**と言い、ゴリアトを倒したのです。

神の「真の崇拝者」は、人生の問題をこのように見ているのです。私たちはこの大きさ[小さい]です。 私たちの問題はこの大きさ[大きい]です。しかし、神はこのように大きな[巨大]存在です。そして、私たちは主の御名によって、それに打ち勝つのです。それが「子供たち」の信仰であり、イエスに歓迎もされました。

(3)結論
日本では、人々はかなり信心深い場合があります。神社仏閣のスタンプを集めるために、御朱印

帳を持つ人がいます。人々はそのような場所を訪れ、その神々を参拝したり祈ったりして、そこの印をもらうのです---何に祈っているのか特に気にすることもなく。

ショッピングセンターの中に設置された「ハローキティ」に参拝することが出来る小さな神社を見たことがあります。 しかし、イエスに祈ったり礼拝したりしたい、という人は多くありません。何故だろうと考えたことがありますか？

理由はこうです： 他の神々を崇拝することで面倒なことにはならない、他の人を攻撃することになるような道徳的基準を受け入れる必要がないからです。

一方、イエスのもとに来ることは、神の基準に従うことを要求されます。私たちが行う多くのことが罪であり、悪であるという事を受け入れなければなりません。
例えば：
1. 偶像崇拝、先祖崇拝は罪である---これは屈辱的です。
2. 私たちは愛するためにある。私たちの他人に対する怒り、恨み、赦せない気持ちは、罪である。---これらもまた不愉快です。
3. 性的不道徳---婚前・婚外の全ての性的関係/考え方は罪である。---これは非常に不愉快でしょう。
4. 自分の喜びを満たす欲望を人生の目的とする事、お金、名声のために生きることは罪です。---これは非常に攻撃的です。

そして、このような基準を受け入れることは、他の人にとっても不快なことです。そして、ほとんどの人は、これらのことを続けるか、これらのことをする人を攻撃しないようにしたいと思っています。

しかし、実際に、これらのことが自分の人生や他の人の人生をも破壊していることに気づいている人もいます。彼らは、「私の人生や他の人の人生を破壊することになるから、これを続けることはできない」と言うのです。
そして、「目の見えない人」や「足の不自由な人」と同じように、ある人々を怒らせると分かっていても、イエスに癒しを求めました。

彼らは、自分たちがこれだけの大きさ[小さい]であることを知っています。彼らの問題や罪、そのほかの問題はこのような大きさ[大きい]であると。しかし、神様はこのように大きい[巨大な]方です。そして、彼らはそのお方に信仰を置きました。これが真の礼拝です。

マタイ５章３節にこうあります。「心の貧しい人々は、幸いである 天の国はその人たちのものである。」

「心の貧しい人」とは、文字通り「心の乞食」であることです。謙虚にイエスのもとに来て「主よ、私はどうしようもない者です。他の人が何と言おうと気にしません。どうか私を助けてください」と言うことです。これが真の礼拝者の祈りなのです。

このようにイエスのもとに来ることができれば、私たちは祝福されます。天の御国は私たちのものです。もし、これが今のあなたの姿でないなら、今すぐイエスのもとに来てください。彼はあなたを助けてくれるでしょう。そして、あなたは神の王国で生きることになるでしょう。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg2322jp

★クラス 101
（伝道方法を学ぼう!）
9月10日（日）13:30～17:30
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http　://t-b-c.us/give

クラス申込み
http://t-b-c.us/classes



奉仕者募集中！

1．週末礼拝メッセージ翻訳者（数名募集）
1か月半に1度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語を日本語へ翻訳します。

2．日本語字幕オペレーター（4名募集）
月1回～各礼拝の時間（特に3時、5時の礼拝募集）の字幕のページをめくる奉仕です。英語を聞いて日本語がどの翻訳部分かわかる程度の英語力が必要です。操作は矢印キーを押すだけの簡単なものです。

連絡先（ひろみ）：
hiromik@tokyobaptist.org